

函館朝市 (函館朝市協同組合連合会)

北海道函館市

健やかな市民生活を支える、福祉と商業が融合した函館朝市の取組



取組の背景

地元住民とのつながりの重要性を再認識

函館朝市は北海道有数の観光地「函館」の代表的な観光スポットであり、国内外からの観光客が圧倒的に多い。ここ数年では特に急増している外国人観光客向けに「多言語での案内サービス」、「免税対応」、「検疫情報の提供」、「海外宅配サービス」等のインバウンド対策を実施してきた。

一方で地元住民の足は朝市から遠のいていた。朝市で扱う商品の多くが高級品のため、近隣に住みながらも何年も朝市に来ていない住民も増えていた。しかし東日本大震災をきっかけに「市民の台所」としての地元住民とのつながりの重要性を再認識した。地震により朝市は全店浸水被害を受け全壊した店や施設も多かったが、函館市役所や地元の有志たちが一斉に集まり朝市の再興に力を貸し、予想よりも遥かに早く営業を再開することができた。

この経験から地元の人にも足を運んでもらえるように取組を行う必要性があると痛感し、地元還元・地域貢献できる継続的な取組を検討することになった。

取組の内容

「買い物×食事×レクリエーション」で地域に貢献

函館朝市では、2017年4月から「おでかけリハビリ」を開始した。「おでかけリハビリ」は高齢者や要支援・要介護等の援助の必要な方を中心に「買い物×食事×レクリエーション」を組み合わせたりハビリができる取組である。内容は介護施設や近隣の役場の送迎車で朝市に到着した参加者が文化教室や介護予防教室等の体験講座の無料のレクリエーションを受講した後に、自由に買い物を楽しみ、最後に海鮮丼等の食事を取って送迎車で帰路につくものである。介護が必要な参加者にはスタッフが付き添うほか、車椅子や歩行器の貸出しもあり安心して参加できる。これにより参加者の「活動・運動・交流」の機会を増やし健康増進を図るとも

に、集客力向上等商環境の活性化も目指している。鳥取県でモデルケースとなっていた「ショッピングリハビリ」を参考にした。

函館風のアレンジのポイントは、より多くの市民に参加してもらうために地域や商業と幅広く連携していることである。作業療法士、言語聴覚士の他、介護施設、商業施設、タクシー会社等約17団体から構成される協議会を設立し、現在は朝市の他、市内12の複数の商業施設でも実施されている。また日用品の少ない朝市で地元の人が喜んでくれるコンテンツとして、海鮮丼等を食べる「食事」をプログラムに導入していることも特徴である。更に、レクリエーションに関しては、もともと地域で繋がりのある高齢者たちが、朝市で健康に関連したレクリエーションに参加することで、仲間同士で健康になれば、地域コミュニティ全体も元気になるというコンセプトのもと、組み込まれている。

2018年3月からは現地通貨（おでかけコイン）を活用したポイント制度を導入している。1,000円買い物する毎に「おでかけコイン」1枚を付与し、10枚集めると500円分の商品券と引き換えられる仕組みは参加者から好評を得ている。



朝市での対面販売のコミュニケーション



海鮮丼等のお食事プログラム

取組の成果

予想以上の地元住民の反響
で売上増や集客につながる

「おでかけリハビリ」は2017年度に24回開催、約400名が参加した。売上推定は100万円であった（4～9月まで朝市での実施。9月以降は市内複数の店舗で実施）。2018年度は4～3月までに80回開催で延べ900名と2倍強となり、この期間の売上推定は約200万円と昨年度の2倍の売上規模に成長している。

集客力向上等商環境の活性化だけでなく、要介護者らのリハビリ効果にも手ごたえが見られた。介護施設でリハビリを拒否して歩かずにいた高齢者が、朝市や商業施設で買い物を楽しみ、その後リハビリに打ち込めるようになったという事例も報告されている。こうした点が評価され、日本総研主催の「RE-CAREアワード2018」の審査員特別賞を受賞した。参加者の家族、施設関係者、ボランティアスタッフも朝市に足を運びやすい環境を生み出したという成果も出ている。



健康増進を図るレクリエーション

実施体制

「おでかけリハビリ」は2017年10月に発足した「おでかけリハビリ推進協議会」によって運営されている。協議会の会長は函館朝市協同組合連合会事務局長の松田悌一氏。現在の協議会メンバーは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の他、介護施設、商業施設、タクシー会社等約17団体から構成されている。

「おでかけリハビリ」は現在朝市の他、市内12の複数の商業施設で実施されている。函館朝市では函館朝市協同組合連合会の事務局、各組合事務局、各店舗の連携体制のもと実施している。

キーパーソンからのコメント

健康をコンセプトに市民に開かれた商店街へ

昨年はインバウンド（観光）、今年は地域協働と別カテゴリーで選出いただき感謝しています。「おでかけリハビリ」は朝市だけの利益を優先するのではなく、函館全体の地域貢献を目的にしています。売上の点では観光に比べると小さくはありますが、地域の人々に朝市に来てもらい健康につながるコンセプトが理解され着実に参加者が増えています。その結果、朝市のイメージも「観光客向

けだけでなく、市民にも開かれている」と認識してもらい、商店街全体の活性化につなげていきたいと考えています。

最近は参加者だけでなく、ボランティアスタッフの登録も増えていきますので、今後は、人出不足が深刻な介護業界に対し、主婦や学生などのスタッフを派遣する新事業「おたすけ」サービスを展開し、高齢者の外出をサポートしていきます。

おでかけリハビリ推進協議会 会長
函館朝市協同組合連合会 事務局長
松田 悌一商店街の
概要

函館朝市の歴史は1945年頃から近郊農家が函館駅前では野菜を立ち売りしたことから始まり、1956年に現在地に移転。1987年には場内の組織が結集し、函館朝市協同組合連合会を設立した。

現在の商圈は人口約26万人の函館市と隣接する北斗市、七飯町の人口約7万人であるが、来街者は国内外の観光客が圧倒的に多い。インバウンド対策にも積極的で、2017年度にはインバウンド分野で「はばたく商店街30選」に選出されている。2017年からは地元住民とのつながりの重要性を再認識し、地元の高齢者、要支援・要介護認定者を対象に「健康×お買物×食事を組み合わせた取組を開始。地域の福祉に積極的に関わり貢献している。

- 所在地 北海道函館市若松町
- 人口 約26万人（函館市）
- 電話／ 0138-22-7981
- FAX／ 0138-22-7936

- URL <http://www.hakodate-asaichi.com/>
- 会員数 136名
- 店舗数 136店舗

- 商店街の類型 観光型
- 主な客層 国内観光客、外国人観光客／50歳代、60歳代